

へボン式ローマ字を小学校でも

1 はじめに

市内では小中一貫教育に向けて取り組みが進められています。中学校の英語の先生から、「小学校でもへボン式ローマ字を教えてほしい」という意見を聞いています。それに対して、小学校の先生からは、「ローマ字(訓令式:国語で習うローマ字)さえ覚えさせるのに時間がかかるのに…」という声も聞いています。小学校でへボン式ローマ字を教える意義やその指導方法が分かれば、小学校でもへボン式ローマ字を教えることが始まるのではないかと考えました。小学校での取り組み例を提案します。

2 ローマ字について

ローマ字についてネットで調べてみました。ローマ字にもいろいろ種類があるようです。ここでは、小学校で習うローマ字と中学校で習うへボン式ローマ字について絞って紹介します。

小学校で習うローマ字は訓令式と言います。日本語を書くために作ったローマ字で、書き方が決まっています。

一方、へボン式ローマ字は次のように考えると理解しやすいです。日本人が英語の読み方をカタカナで書くことがあります。へボン式ローマ字は、英語を話す人が日本語を読むための‘ふりがな発音記号’のようなものであるということです。

ネット上で、次の文章を見つけましたので、紹介します。

日本語のローマ字表記の推奨形式

東京大学教養学部英語部会／教養教育開発機構

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/eigo/UT-Komaba-Nihongo-no-romaji-hyoki-v1.pdf> より引用

▶ 訓令式とへボン式

主なローマ字表記の伝統的な形式は主に二つあり、それぞれ訓令式とへボン式と呼ばれています。

訓令式は日本の小学校の多くで教えられている形式です。国際標準化機構によって採用されており(ISO 3602 という国際基準)、学術論文や日本語教育で使用されることもあります。

へボン式のローマ字表記は、日本政府がパスポートや多くの国際交流の場で使用しており、学術論文向けに推奨されるものです。日本でも他の国々でも、英語の出版物でもっとも広く使われている形式です。

どちらの形式にも長所と短所があります。訓令式は日本語のかなと英語の文字とが、より厳密な一対一対応になっています。たとえば、た、ち、つ、て、と、という「た行」の音は、ta, ti, tu, te, to のように、すべて t の文字で表されており、日本語の母語話者にとって覚えやすくなっています。一方、日本語を知らない英語話者にとっては、へボン式のローマ字表記(ta, chi, tsu, te, to)のほうが、実際の音を正確に推測しやすいのです。「ちかてつ」という言葉が訓令式で tikitetu と表記された場合、大抵の英語話者はすべての t の音を英語の“t”のように発音してしまい、「ち」や「つ」の音を再現できません。へボン式表記の chikatetsu なら、日本語により近い発音をすることができます。

ローマ字について調べていくうちに、ふと北海道へ行ったときのことを思い出しました。北海道の地名は、アイヌ語由来のものが多いのでしょうか。漢字で書かれている場合、何と読んでよいの分からない地名がいくつかありました。しかし、ローマ字で並記されていることで、地名(漢字)の読み方が分かったのです。ローマ字はへボン式だったと思います。

ネットで調べたことや日常生活を振り返ってみると、ローマ字を使うのは、英語を使う人に日本の固有

名詞を表現する場面が多いのではないのでしょうか。そうであるなら、ヘボン式ローマ字を学ぶべきです。

3 小学校でのローマ字学習

当然、訓令式から学習します。日常生活でローマ字を使うのは、まずは自分の名前です。自分の名前を訓令式で書けることです。

訓令式のローマ字表を完全にマスターせずとも習うより慣れるです。ローマ字に慣れ親しむために、例えば、クラスの友だちの名前を書いたり読んだりできるようになることです。

次に、ヘボン式ローマ字を紹介します。「日本人が英語の読み方をカタカナで書くことがあります。ヘボン式ローマ字は、英語を話す人が日本語を読むための‘ふりがな発音記号’のようなものです。」と説明すればいいでしょう。こちらも習うより慣れるです。フラッシュカードやゲーム形式で、ヘボン式ローマ字で何と書かれているかどンドン読ませる事です。例えば、修学旅行や社会見学で行くところの地名・駅名・お寺や神社の名前、地域の駅名、新幹線の停車駅、県庁所在地名、歴史上の人物、日本の世界遺産などなどです。

4 まとめにかえて

小学校でのローマ字学習では、次のことを提案します。

○ヘボン式ローマ字で自分の名前を書けること

○ヘボン式ローマ字で表記された様々な日本の固有名詞を繰り返し読むこと。

小学校でも英語科が入ってきます。英語活動や英語科で取り組んでいけるのではないのでしょうか。